

みんなで
読んでほしいコブ!

チカラコブたん

2021・3



コブタ しぽーと

■地域の力こぶ増進計画・ニュースレター■



令和2年度は、新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。密集・密接・密閉の徹底的な回避を求められ、多くの総会は書面決議に、イベントは中止を余儀なくされました。地区まちづくり活動は、そこに住む人々の関わり合いによって成り立ち、感染予防対策が馴染みにくい側面もあります。難しい判断をされた一方で、このような時だからこそ地域のつながりが大切だ、と思いを新たにされたこともあったのではないのでしょうか。そこで今回は、このような状況のなかで、工夫をこらし、活動してきたいくつかの地区の様子をご紹介します。

地区まちづくり行動計画の再検討を行った伝法地区 まちづくり協議会会長にお話をうかがいました。



伝法地区まちづくり協議会
会長 望月久司さん

地区の多くの会議や行事が中止になりました。「じっくり考える時間ができた」と思いました。そこで、昨年度に検討した地区まちづくり行動計画を再検討することにしました。

まず行ったことは－
これまでぼんやり感じてきた地区の問題点について、その実情を確かめようと、小学校のPTAのみなさんや悠々クラブなど、いろいろな団体にヒヤリングをしました。活動しているみなさんの生の声を直接聞くことで、新しい発見があるかも、という期待もありました。

わかったことは－
「コミュニティ」が足りていない、ということでした。ならば、地区の住民同士のつながりを深めるために、地区の誰もが参加でき、地区に必要なことを楽しみながらやっていくボランティアサークルのようなものをつくりたい、それを地区まちづくり行動計画に書き加えたい、と思いました。そこで、私がたたき台をつくり、三役会に提案しました。

行動計画の再検討作業は－
10月以降、6回会議を行いました。具体的な活動目標を掲げ、その実現にむけた活動方針と実施事業をシンプルにわかりやすくまとめることができたと思っています。将来像はイメージではなく、具体的な活動目標にしました。キャッチフレーズは地区の「合言葉」として浸透していけばいいなと思っています。

まちづくり協議会をどのように活性化していきますか？
基盤となる総務会の強化をしていきたいと考えています。地区内の団体の情報共有、ボランティアサークルの運営を担う企画・広報、情報共有によって確認された地区の課題対策を進める体制を作っていきます。地区の中だけでなく、行政や地区の外とも連携をしながら目標に向かって活動していく組織にしていきたいと思っています。

コロナの影響を受けて生まれた時間を生かして、これからのまちづくり協議会を自分たちでしっかり考えることができたと感じています。

まちづくり協議会役員間の連絡、調整に SNS（ソーシャルネットワークサービス）を活用

広見地区

広見地区では、平成30年に、まちづくり協議会で携帯電話を購入し、役員間の連絡などに活用しています。さらに、まちづくり協議会代表執行役員会10名でグループラインを使い、会議開催などの事務連絡や出欠確認、行政などから届く各種文書等への対応方法などの話し合いをオンラインで行っています。



連絡がとりやすくなった
せっかく習ったのだからとグループラインを始めたものの、当初はメッセージの見逃しなど、連絡が徹底できないこともありましたが、今では皆慣れてきました。メッセージでのやりとりは、電話等のように連絡相手の都合を気にする必要が少なく、自分の可能な時間にメッセージを送ることができるため、連絡調整がスムーズになってきています。

少人数から始め、徐々に輪を広げて
代表執行役員会のグループラインが軌道に乗ってきたので、他の部会などでも活用しようと30名程度のグループラインを試みっていますが、料金や機器など通信環境などに個人差もあることから、現在参加しているのはその半数程度にとどまっています。



まちづくり協議会代表執行役員会のグループライン

きっかけはセンター講座
平成31年3月に、まちづくりセンターの講座「LINE講座」が行われました。一人100円の参加費は、まちづくり協議会で負担し、まちづくり協議会役員を含め、26人が参加しました。

「LINE講座」
参加募集チラシ



お知らせ

まちづくり協議会が行う地区のデジタル推進事業の費用を補助します。
令和3年度 まちづくり協議会デジタル推進補助金

コロナ禍において、あらためて情報共有の大切さや、デジタル化の重要性が増してきました。また、ICTの活用により、若者世代やこれまでつながりなかった世帯との交流も期待されています。富士市では、令和2年8月に「デジタル変革宣言」を行い、デジタル技術を活用したまちづくりを進めています。そこで、これからの地区のデジタル化を応援するため、令和3年度のみ（単年度）の補助制度が新設されることになりました。

- 対象：活用効果が見込まれ、今後の地区のデジタル化が推進される見通しがある事業
ソフト・ハードを問いませんが、単にパソコン、プリンター、プロジェクターなどの機器の購入のみでは対象となりません。
- 補助金額：1地区 上限10万円
- 補助率：10/10
- 地区からの交付申請受付：令和3年7月末まで
各地区のデジタル化への見直し等を含め審査の上、交付されます。

例：オンライン会議に必要なソフトのライセンス購入費用、ウェブカメラ など

くわしくは、まちづくり課まで

【発行】 令和3年3月
【発行者】 富士市市民部まちづくり課
富士市永田町1丁目100番地(富士市役所3階)
☎ (0545) 55-2887
🌐 <http://www.city.fuji.shizuoka.jp/>



今後につなげていくために、今できることを

吉永北地区「菜の花の里まつり」

毎年3月に鶴無ヶ淵公園で開催されている「菜の花の里まつり」。例年、ステージに展示、模擬店などが並び、地区で最も賑やかな行事です。今年度は、ステージ発表や出店は中止され、鶴無ヶ淵公園とその周辺の菜の花による飾りつけと3月7日(日)から14日(日)の8日間、吉永北まちづくりセンター集會室での展示発表を実施しました。

やれることを考えよう

毎年10月頃から準備に入りますが、今年度は新型コロナウイルス感染がやまない中、来年度につなげていくために、「やれることを考えよう」と、中止を視野に入れた検討はしませんでした。

吉永北地区広報誌「おもいやり」1月号で中間報告



開催については、地区住民から不安の声もありましたが、地区広報誌で途中経過を報告し、まちづくり協議会として、開催の考え方を地区のみなさんに説明するように配慮しました。



展示は、文化祭の中止によって発表できなかった作品を展示したほか、小学校や子ども会、ジュニアリーダーの活動写真、20年前のまつりの様子を写真で紹介しました。

小学校の活動を写真で展示

菜の花で緑化した「一万歩コース」をマップで紹介



伝統ある行事を途切らせない

今泉地区「善得寺まつり展」

「善得寺まつり」は、今川・武田・北条による三将盟の舞台の地とされる善得寺跡地で毎年3月中旬に今泉地区まちづくり協議会が主催し、開催されてきました。ステージで三国同盟の模様を再現した寸劇や芸能発表などが行われるほか、小・中学生の書道作品などの展示、模擬店などが開かれる恒例の行事です。

まつりの雰囲気を感じてほしい

まちづくり協議会で今年度の「善得寺まつり」について協議が行われ、「地区の大切な行事として、忘れては困る」「供養祭は行うべき」などの意見が出され、なんとか開催できる方法はないか検討しました。そこで、今泉まちづくりセンターで「善得寺まつり展」を開催することにしました。

▼まちづくりセンターの入り口には、三武將にちなみダンボール製の甲冑3体を展示。



3月7日の供養祭の後、まちづくり協議会役員の手作りで会場づくりを行い、実現できた達成感を味わうとともに、「この形ならできる」と手応えを感じる事ができました。

小中学生の習字作品展示のほか、例年の舞台発表に参加している団体のDVD上映や、まちづくりセンターで保管していた平成16年からのまつりのポスター、例年の写真コンクール優秀作品などの展示を行いました。



▲写真コンクール作品展示 歴代ポスター▼



参加者の目印に「シトラスリボン」

会場型の活動におけるコロナ感染防止対策として、来場者の管理が求められます。そこで、参加受付済みの目印になるよう「シトラスリボン」を配ろうと考えました。地区の婦人会や男女共同参画推進員が中心となって製作し、菜の花の沿道緑化作業でも参加者に配布しました。

そして、今回だけでなく、道路清掃など、これからの地区まちづくり活動の場でも参加者への配布を継続していくことにしています。

「シトラスリボン」とは



吉永北地区まちづくり協議会会長の千葉辰夫さん(写真中央)は、「ステージイベントはやむなく1月に中止を決定しましたが、地区の大切な世代間交流の機会として、「菜の花の里まつり」を継続していくために、今年度の経験は大切だった」と語っています。

コロナ禍における感染者やその家族、医療関係者への差別偏見をなくし、エールを送りたいと愛媛県内から始まった運動で、3つの輪は地域・家庭・職場(学校)を表現しています。このリボンを身につけて、運動への参加をします。



◀吉永北地区のシンボルである菜の花の黄色で製作しています。

富士市のシトラスリボンプロジェクト

「シトラスリボン mamori (まもり) ふじ」

<https://www.city.fuji.shizuoka.jp/machi/c1002/rn20la000002rnngd.html>

屋外活動もコロナ対策を徹底

大淵地区「クリーン作戦」

大淵地区では、11月29日(日)に地区住民871名が参加し、「クリーン大作戦」を行いました。屋外の活動とはいえ、コロナ禍での実施のため、いくつかの工夫をしたことで、例年並みに行うことができました。



▲開会式参加者も距離をとって

9月上旬、参加者名簿の提出を町内会に依頼し、参加者管理を徹底しました。2回の準備会議は、まちづくりセンターのいつもより広い部屋を確保し、感染対策を十分行った上で開催しました。



▲活動中のマスク着用も徹底

新たな広がり

3月8日(月)から19日(金)まで展示を行ったことで、普段、「善得寺まつり」には参加していないセンター来場者がまつりを知る機会となったり、まちづくりセンターに来る機会の少なかった小・中学生やその家族が展示を見にセンターを訪れたり、これまでの1日限りで行ってきた「善得寺まつり」にはなかった効果もありました。



▲毎年恒例の三将同盟にちなんだ小・中学生の習字の展示とともに、センター講座の作品発表